



新入生に望む 中学校16期生 高等学校52期生へ

# 目標に向かって邁進せよ

中学・高等学校長 影山 博



國學院大學  
栃木中学高等学校  
〒328-8588  
栃木市平井町 608  
☎(0282)25511  
校報委員会

### 〈4月の行事予定〉

- 1日～2日 入学手続き(高)
- 5日 単位認定試験(高)
- 6日 入学式(中・高)
- 7日 始業式・対面式(中・高)  
身体計測(中1年・高1年)  
課題テスト(高2・3年)  
美化の日(高)
- 8日 授業開始(中・高) 身体計測(高2・3年)  
オリエンテーション(中1年・高1年)  
課題テスト(中2・3年)
- 11日 スタディサポート(高1年)
- 15日 生徒総会(中)
- 16日 学力診断テスト①(中)
- 18日 父母会役員会(高)
- 18日 小論文テスト(高)
- 28日 28日 生徒研修(高1年)
- 30日 避難訓練(中)

日々今日から本校での学校生活が始まります。高等学校は昨年創立五十周年を迎え、中学校も平成八年の開校から今年で教えて十六年目に入りました。この間、本校は「文武両道」を目指し、様々な教育活動に真摯に取り組み、今や栃木県下有数の私学として高い評価を得ています。先ず、諸君は國學院大學栃木中学・高等学校の生徒であるということに自覚しなければなりません。人生の土台作りにおいて最も大切なこの時期を、中学生は六年間、高校生は三年間本校で送るわけですので、本校の教育方針をよく理解し、先生方や仲間と共に切磋琢磨しながら、人格を磨き、学力を向上させるために努力することが大切です。

### 建学の精神と校訓

本校は國學院大學の附属高等学校として設立されたことに始まりますから、國

學院大學の建学の精神が即ち本校の建学の精神です。建学の精神とは学校設立の目的や理念のことです。國學院大學の前身である皇典講究所は明治十五年に設立されましたが、十一月四日の開塾式に臨まれた総裁有栖川宮熈仁親王は、学問は基礎・基本が最も重要であり、我が国の歴史や文化・伝統をよく学び、道徳心を養い育て、立派な日本人となるようにと諭されたのです。以来、國學院大學はこの精神を継承して百三十年の高等学校も五十年の歴史を刻んできたのです。



栃木駅前 教育センター

本中学・高等学校は、教育目標で「國學院大學建学の精神に則り、人格の陶冶に重きを置いて、理性と情操の豊かな視野の広い人間形成を

目標とする」と言っています。この目標を簡明且つ具体的に表したのが「たくましく 直ぐ 明るく さわやかに」の校訓です。この校訓は神道の根本精神である「明浄正直」と青年の有する逞しさと清潔さを標語化したものでもあります。意味するところは、素直で、明るく、爽やかな心を持ち、何事にも負けずに挑戦する逞しい心身を身につけようということです。本校が目指す人間像がここに表現されているわけです。

### 学力の向上

本校教育の柱の一つは今述べた「人間力の向上」ですが、更に大切なことが「学力の向上」です。学生・生徒の自分が「勉学」にあることは言うまでもないことです。諸君はこの三年間、中高一貫生は六年間を真面目に学習に取り組まなければなりません。「所懸命」という言葉は、中世の武士が先祖相伝の所領に生命を懸けたことに由来しますが、勉強も同じことです。予・復習を徹底し、授業に集中して、必死に努力しなければならぬのです。西洋に「馬を水辺に連れて行くことは出来るが、水を飲ませることは出来ない」という諺がありますが、学ぶか学ばないかは諸君自身の意志なのです。本校の教師はどの学校にも負けないくらい熱心に指導しますが、それを活かすことが出来るかどうか、諸君の気

持次第です。三年間(六年間)努力するのとは異なるのは、大きな差が出るのは当然です。将来に向けて明確な目標を立て、意欲を持って学業に精進しなければなりません。

◇◇◇◇◇  
初代の高等学校長であり、現在学園長の佐々木周二先生(先生の寿像は中庭に立っています)は「頭」と「心」と「体」の力を鍛える教育を提唱され、現在も本校教育の大きな目標になっています。「人間力」と「学力」の向上に真摯に取り組む生徒に育って欲しいと全ての教師が真剣に考え、実践しているのです。

生徒諸君は勉学は勿論、部活動・学校行事・ホームルーム活動に積極的に取り組み、級友や仲間との友情を育みながら、この学園で立派な人間形成が出来ることを期待しています。



学園坂の校訓碑